

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		08 02 07	中期総合計画主要施策番号		2-02,2-07		担当課	部・課	観光部 観光振興課		
事業名		スノーリゾート信州構築事業				内線		3541			
						E-mail		kankoshin@pref.nagano.jp			
事業の概要等	事業の目的	従来のスキー振興に加え様々な魅力を満載したトータルな形での冬の信州の楽しみ方を「スノーリゾート信州」としてプロモーションし、冬の信州への誘客を図る。									
	事業の必要性	<p>【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】</p> <p>従来から冬の信州の基幹産業として位置づけられるスキーだが、そのスキー場を利用する人数は、平成4年度の21,195千人をピークに、年々減少してきており、平成19年度には8,153千人とピーク時の4割弱にまで減少している。そのため、冬の信州への誘客対策が求められている。</p> <p>【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】</p> <p>・人口構造の変化(平成2年と平成17年の全国の人口構造を比較すると、20歳から59歳が減少しており、70歳以上が2倍近くに増加するなど、スキーやスノーボードを行う若い世代の人口が減少している。)</p> <p>・スキーマーケットの変化(スキー場に行く同行者の変化、冬に出掛ける目的の多様化、スキー・スノーボード自体の魅力低下など)</p> <p>【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】</p> <p>高齢化が進展しニーズが多様化している現在のマーケットにおいては、スキーやスノーボードといったアクティブな面だけでなく、「温泉」、「食」、「スノーシュー」、「雪景色」など「スキー以外の楽しみ」を組み合わせることにより新たな魅力づくりを行い、それらをプロモーションしていく必要がある。</p>									
		事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・索道事業者等を対象とした研修会の開催</li> <li>・各種媒体を活用したプロモーションの実施</li> <li>・スキーを中心とした様々な冬の魅力を満載した旅行商品づくりに対する支援</li> <li>・スキー場の今後の展開について検討するための有識者による研究会の設置</li> </ul>								
		実施期間	H20 ~	根拠法令等	スノーリゾート信州誘客事業実施要領、スノーリゾート信州誘客事業助成金交付要綱						
	成果と達成状況	事業の目指す成果	達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況			評価		
	冬の信州の楽しみ方、新たな魅力等をプロモーションすることにより、誘客の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スノーリゾート研修会を開催(2回)し、延べ200人以上の参加を得る。</li> <li>・各種プロモーションの実施(イベントの開催、PRツールの作成、雑誌等への掲載など)により、県内外にスノーリゾートとしての浸透を図る。</li> <li>・スノーリゾートにふさわしい旅行商品づくりに取り組む団体を6団体掘り起こす。</li> <li>・スキー場の今後の展開に関する提言を取りまとめ、関係者に対し周知を図る。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・スノーリゾート研修会を2回開催し、春の研修会には約100名、秋の研修会には約80名の参加を得た。</li> <li>・赤坂サカスでのイベント開催、パンフレット・ポスター等の作成、スキー雑誌等4誌への掲載など各種プロモーションを実施した。</li> <li>・スノーリゾートにふさわしい旅行商品づくりに取り組む7団体に対する助成した。</li> <li>・スキー場の今後の展開に関する提言を取りまとめ公表するとともに関係者に周知を図った。</li> </ul>			a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下			
事業コスト	区分	単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要					
	最終予算額 (A)	千円		26,772	41,752	国庫・県単	国庫・県単				
	決算額 (B)	千円		25,849		実施方法	直接・負担金				
	B(H21はA)のうち一般財源	千円		20,849	30,214	歳出節別内訳等	報償費:361	使用料:40			
	概算人件費	人		1.00	1.00		旅費:434	負担金:16,499			
	概算人件費 (C)	千円		7,149	7,149	(単位:千円)	需用費:2,451	役務費:3,072			
	概算事業費 (B(H21はA)+C)	千円		32,998	48,901		委託料:2,992				
事業実績	内容	単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績					
	研修会の開催数	回		2	1	赤坂サカスでイベントを開催した。					
	旅行商品づくりに取り組む団体数	団体		7	6	パンフレットを17万部、ポスターを2600枚作成した。					
	経営支援会議の開催数	回			2	スキー雑誌等4誌にPR記事を掲載した。					
事業の課題	区分	判定・説明									
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	・スキー場来場者の減少化が続いているため、プロモーションを継続していく必要がある。 ・県が中心となって開始したプロモーションであるため、当面県の関与を見直すことは困難である。 ・索道事業者、旅館ホテル組合、関連民間企業等をもっと関与させることにより有効性を高める余地がある。					
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり							
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり							
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり							
課題の総括	・長野県のスキー場来場者数の減少化傾向に歯止めをかけるには、トータルでの冬の信州の魅力を高め、それを全国に向けて継続してプロモーションしていく必要がある。そのためには、県だけでなく関係する団体等が連携して、今後も継続して取り組んでいく必要がある。										